

＜水産環境保全委員会企画シンポジウム＞
水産環境における化学物質汚染の現状・評価・対策

日時・場所 平成22年3月30日(火) 10:00～17:10・日本大学生物資源科学部10号館1016講義室
企画責任者：大嶋雄治（九大院農）・藤井一則（水研セ瀬水研）・堀口敏宏（国環研）

- | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|---|
| 10:00～10:05 | 開会のあいさつ | 水産環境保全委員会委員長 |
| 10:05～10:15 | 趣旨説明 | 大嶋雄治（九大院農） |
| 1. 水産における化学物質の諸問題 座長 堀口敏宏 | | |
| 10:15～10:45 | 1. 1 総括：環境ホルモン問題～明らかになったことと残された課題～ | 堀口敏宏（国環研） |
| 10:45～11:15 | 1. 2 有機ハロゲン化合物によるアジア地域の海洋汚染 | 田辺信介（愛媛大沿岸研セ） |
| 11:15～11:45 | 1. 3 沿岸水域に残留するフェノール系環境ホルモンと医薬品 | 高田秀重、竹下綾子、村松佑紀、福本由美、森本拓也（東農工大農） |
| 2. 新しい評価・試験法 座長 藤井一則 | | |
| 13:00～13:30 | 2. 1 内分泌かく乱作用の検出と評価 | 白石不二雄（国環研） |
| 13:30～14:00 | 2. 2 複合的環境ストレスに対する生体影響評価 | 仲山 慶（愛媛大沿岸研セ） |
| 14:00～14:30 | 2. 3 生態学的な視点に基づく生態リスク評価 | 田中嘉成（国環研） |
| 14:30～15:00 | 2. 4 油分予測に基づく油処理剤の生態影響評価 | 小山次朗（鹿大水） |
| 3. これからどう立ち向かうか～いくつかの対策と試行 座長 大嶋雄治 | | |
| 15:00～15:30 | 3. 1 重金属（水銀）汚染からの回復 | 保田叔昭（国水総研） |
| 15:30～16:00 | 3. 2 重油流出事故後の岩礁潮間帯生態系の回復過程 | 小松輝久（東大海洋研）、山本智子（鹿大水）、仲岡雅裕（北大フィールド科セ厚岸）、川井浩史（神大内海域セ）、竹野スノーケルセンター海洋生物研究会、大和田紘一（熊本県大環境） |
| 16:00～16:30 | 3. 3 汚染底質の安全な除去と処理 | 大嶋雄治（九大院農）、冨田彰秀（長大工）
海域環境改善技術開発研究会、神野健二（九大工院） |
| 16:30～17:00 | 4. 総合討論 | 発表者全員 |
| 17:00～17:10 | 閉会のあいさつ | 水産環境保全委員会副委員長 |

企画の主旨

化学物質汚染は、水産業にとって不可避の問題である。過去には、重金属や船底防汚剤汚染等により大きな痛手を受けた。また環境ホルモンは、大きな社会問題となった。現在これらの問題は一旦沈静化しているが、今なお様々な汚染

物質が底質等から検出され続けており、その影響が懸念される。よって本シンポジウムは、これまでの知見を総括し、水産環境における化学物質対策として今後必要な論点を明らかにするために企画した。